令和4年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	東洋大学	主な交流先	英国・オーストラリア
事 業 名	ビジネス日本語教育を通じた高度日本語人材と多文化共生グローバル人材の育成プログラム		
海 外 の 相 手 校	ヨークセントジョン大学、カーディフ大学、カーティン大学、カレッジオブニュージャージー、釜山外国語大学校、仁荷大学校、大邱大学校、チュラロンコン大学、シーナカリンウィロート大学、チェンマイ大学、ダルマプルサダ大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、これまで当該大学が蓄積してきた「アジア太平洋大学交流機構 (UMAP)」での経験と知見をもとにビジネス日本語を通して高度日本語人材・多文化共生グローバル人材の養成を英国とオーストラリア、さらに東アジアや東南アジアの諸大学と連携しつつ実施するものである。地域を超えた複数の大学と連携して実施する上で不可欠な全学的な取組で企画されており、本事業の趣旨を踏まえた取組として高く評価できる。またこれまでも JV-Campus 構想の2つのプログラムで幹事校を務めており、事業の中で蓄積される教育コンテンツをライブ型授業としてさらに提供できる可能性を秘めている。これまでの実績においてもビジネス日本語に関する高いニーズが学生や社会人にあることは明らかであり、グローバルな展開が期待できる。

SDGs 協働学修、国際アントレプレナー会議、バーチャル模擬国連等魅力的なプログラムが計画されており、これまでの実績を生かした複数の学問領域を巻き込んだ多彩なプログラムとなっていることも評価できる点である。質の保証については、ルーブリックや認定要件の手法が確立されており、高度日本語人材についてキャリア支援まで含めてサポートするプログラムとなっており、計画の実現可能性が高い。

一方で、多彩なプログラムが準備されているために、計画の内容がやや細かくなり過ぎている印象があり、インバウンド留学、アウトバウンド留学それぞれに日本語や英語を高度なレベルで学ぶために十分な時間を確保できるか、より細かな説明が必要であり、プログラムの実施段階では状況に応じて更なる検討が望まれる。またこれまでの国際共同教育プログラムを実施してきた経験と知見を有していることを踏まえ、プログラム終了後により具体的な共同学位を授与できる学位コースの設置をパートナー大学との間で取り組んでいただきたい。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。また、本事業は、補助期間終了後は自立的に事業を継続することが前提とされていることから、継続的かつ発展的に質保証を伴った事業を展開されたい。